



授業、部活、文化祭、課外活動…
すべてが「新しい学力」につながる！

高1・2・3年

子どもはどう育つ? 保護者の役割は?

高校生活のさまざまな場面を通じて成長しながら
進路をつかむ子どもたちに、保護者はどんな支援ができるでしょうか。

学年別に学校行事と進路行事のモデルスケジュールを作成し、
子どもの成長ポイントと保護者の関わり方をまとめてみました。

取材・文／藤崎雅子 イラスト／加納徳博

次ページから一挙公開! 「学校行事モデルスケジュール」の見方

【CHECK 1】 さまざまな活動で 新学力UP

保護者には見えにくい高校生活。モデルスケジュールでさまざまな成長ポイントのご確認を。特に、学力の3要素(※)の育成が期待される行事については、【新学力UPの視点】を解説しています。

【CHECK 2】 進路選択の 重要行事は1年生から

高校卒業後の進路に関わる重要な選択の機会が、早くも1年生でやってくることを知っていますか？保護者も進路決定の流れと注意点をおさえて、子どもの主体的な選択を促していきましょう。

【CHECK 3】 保護者の出番となる タイミング

子どもが高校生になると、どこまで手や口を出してよいか難しさを感じる保護者は多いもの。保護者の出番となるタイミングを把握して、適切な距離感で子どもをサポートしていきたいですね。

※学力の3要素＝知識・技能／思考力・判断力・表現力／主体性・多様性・協働性

【アドバイザー】



滋賀県立草津東高校 進路指導課長

堀 浩司先生

教員歴36年。「行き先指導ではなく生き方指導」「家から近い大学ではなく夢から近い大学」などを大切にした、3年間の体系的な進路指導を実践している。

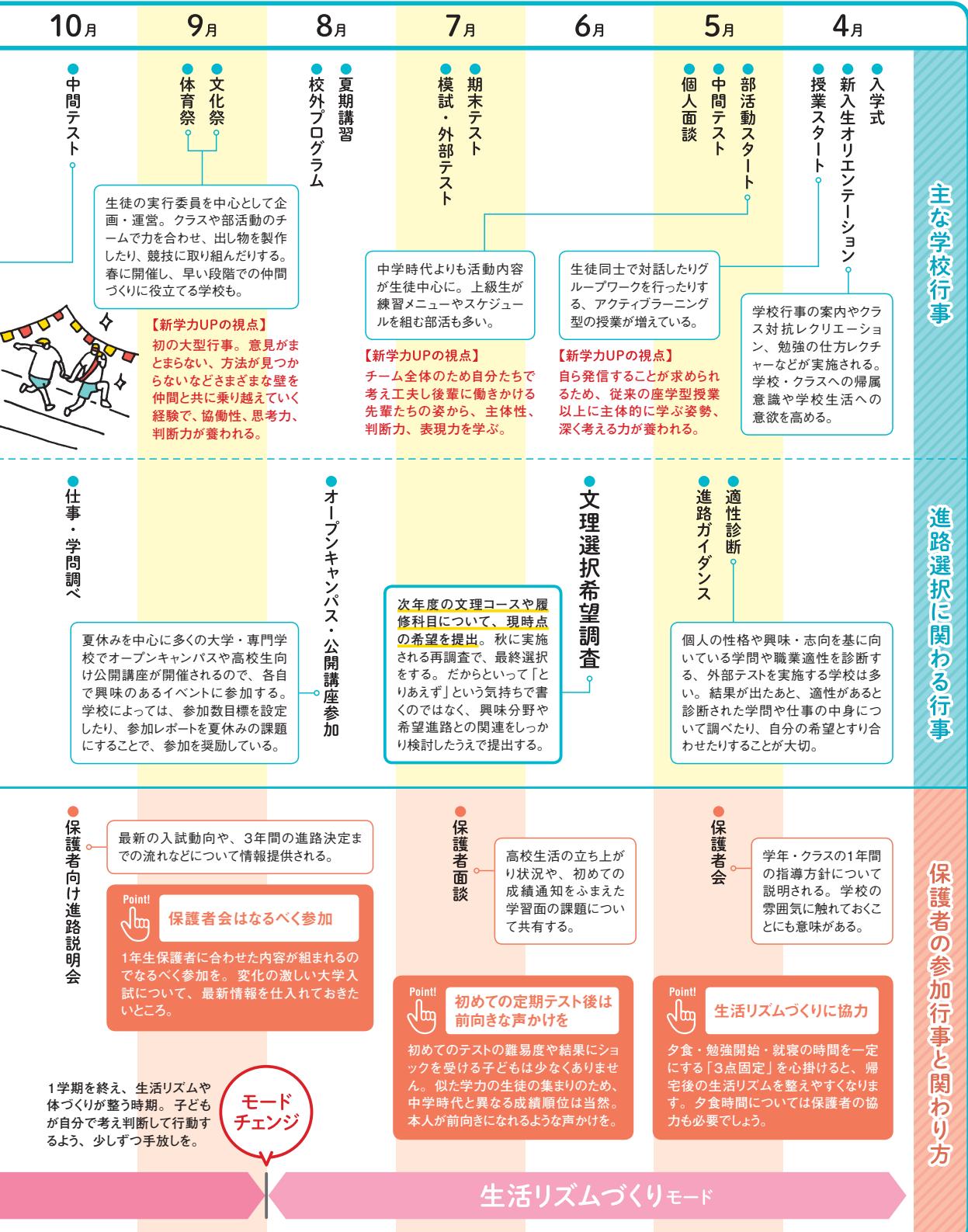
環境変化に少しずつ慣れて生活リズムを形成。

主な学校行事

進路選択に関わる行事

保護者の参加行事と関わり方

1学期中は新生活に慣れるのを焦らず支援



入学したばかりの1年生には、
進路は絞り込むより
可能性を広げる方向で

1年秋は学力が大きく動く時期。1学期は勉強面がおろそかになっていた子どもでも、この時期に自宅学習を含めてしっかりした生活习惯ができることで、大きく成績を伸ばす例は多いと言います。

ムが整うでしょう」(堀浩司先生)
1年秋は勉強面がおろそかになっていた子どもでも、この時期に自宅学習を含めてしっかりした生活习惯ができることで、大きく成績を伸ばす例は多いと言います。

生活面のサポートぐらいたどどめで見守ってあげてください。夏休み明けはだいぶ体力も付き、生活リズムが整うでしょう。(堀浩司先生)
1年秋は勉強面がおろそかになっていた子どもでも、この時期に自宅学習を含めてしっかりした生活习惯ができることで、大きく成績を伸ばす例は多いと言います。

晴れて高校生となつたわが子の姿に、頼もしさを感じている保護者は多いでしょう。しかし、心身共に高校生らしくなるまでには、少し時間がかかります。入学直後は通学方法や通学時間の変化、人間関係づくり、新しい授業への対応などで毎日ヘトヘトに。帰宅したら何もせずに寝てばかりいる子どもも珍しくありません。

「やつていけるのかと心配もあるでしょうが、1学期いっぱいは、部活動を辞めさせるようなことはせず、食事面のサポートぐらいにとどめておいてください。夏休み明けはだいぶ体力も付き、生活リズムが整うでしょう」(堀浩司先生)
1年秋は勉強面がおろそかになっていた子どもでも、この時期に自宅学習を含めてしっかりした生活习惯ができることで、大きく成績を伸ばす例は多いと言います。

先輩保護者に聞きました! /
子どもとの日常のコミュニケーション
教育改革を踏まえて
特に心掛けたいことは?

程良い距離感で、
子どもの主体的な選択・行動を後押し

自立に向けて大きく成長する高校時代。保護者も親子コミュニケーションを見直す時期と言えます。保護者へのアンケート結果からは、さまざまな関わり方で子どもの主体的な選択・行動を後押し、自立を促している様子が浮き彫りになりました。

- | | | |
|-----|--|-------|
| 1位 | 「自分で選択し、それに責任をもつ」 ことが大切だと言う | 30.0% |
| 2位 | お子さんがチャレンジできる機会を 創ったり、増やしたりする | 27.5% |
| 3位 | ニュースや社会の動きなどについて 一緒に考えたり会話する | 25.7% |
| 4位 | 「あなたはどうしたい」「あなたはどう 思う」とお子さんの意見を尊重する | 24.2% |
| 5位 | お子さんを褒める | 16.6% |
| 6位 | 保護者も チャレンジしている姿を見せる | 16.1% |
| 7位 | お子さんに「夢や目標を 大切にしなさい」と言う | 14.7% |
| 8位 | お子さんと意見が異なるとき、 頭ごなしに否定しない | 13.0% |
| 9位 | お子さんが悩んでいたり、 うまくいっていないときに励ます | 10.8% |
| 10位 | 高校で何を学んでいるのかなど、 高校での生活に関して会話する | 9.0% |
- (3つまで複数回答)

■そのほか、こんなフリーコメントも…

「たとえ失敗しても、挑戦したり、やりきったことを褒める」(山梨県)

「まずは自分で考え、行動させる。助けを求めてから手を貸す」(青森県)

「本人がやりたいと思ったことは、やらせるようにしている。いろいろな場所へ連れていき、知らない世界がたくさんあることを伝えるようにしている」(石川県)

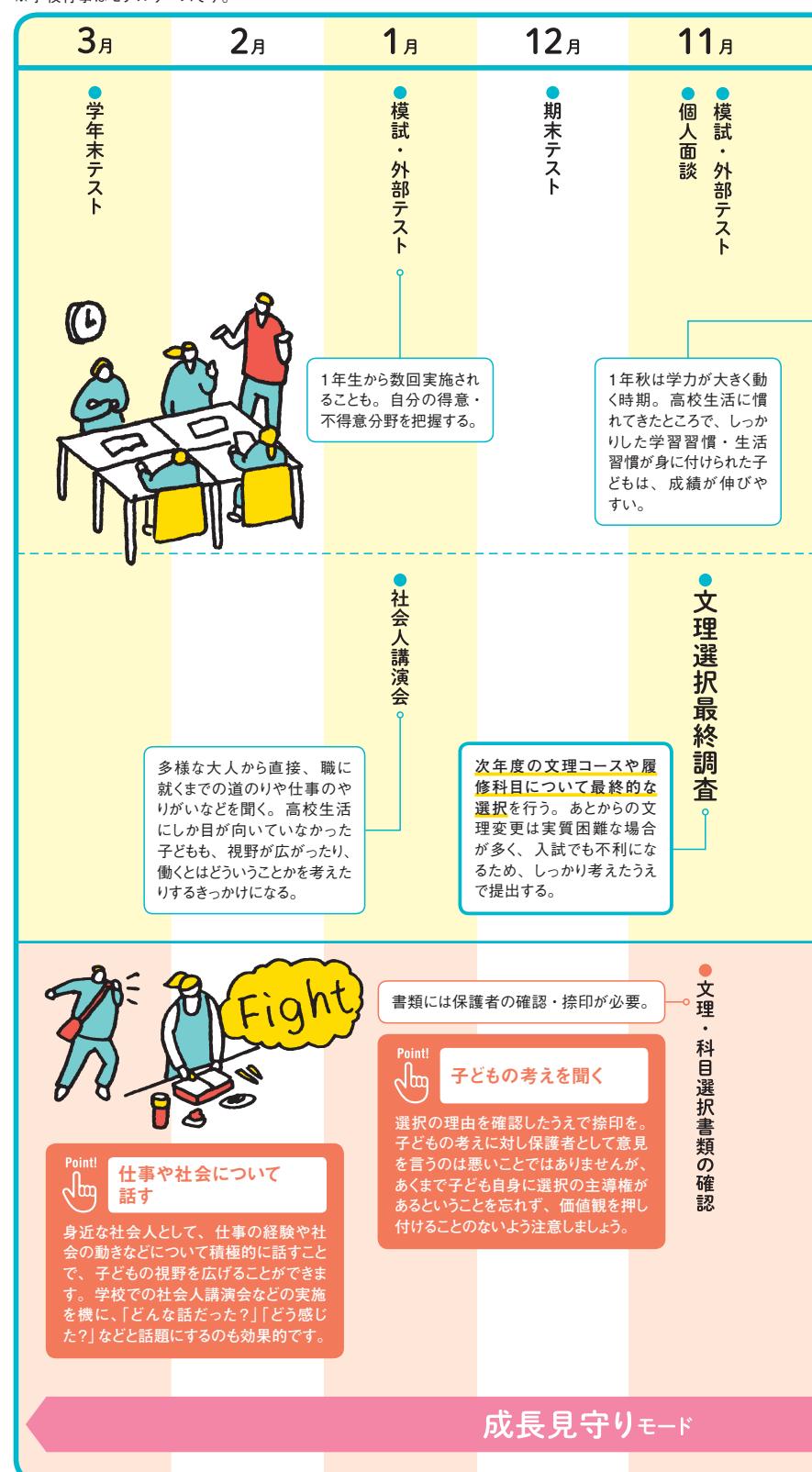
出典:一般社団法人全国高等学校PTA連合会×株式会社リクルートマーケティングパートナーズ合同調査「高校生と保護者の進路に関する意識調査2019」

卒業後の進路の話は遠い先のことには聞こえるでしょう。しかし、進路は「3年生になって決める」ではなく「3年かかつて決める」もの。多くの高校では、春から適性診断や仕事・学問調べなどを通じて進路について考えさせ、秋には文理選択の最終調査を行います。文系に進むと理系学部受験に必要な科目が履修できない場合があるなど、文理選択は後戻りが難しい大事な分岐点です。保護者も子どもの考え方をしっかりと確認しておくことが大切です。

こうして早くも大きな選択を迫られます。が、職業や学問に関する高校1年生の知識は豊富とはいえないません。資格系の職業を目標にあげる子どものなかには、就職の有利さなどで短絡的に考えている場合もあります。

「1年生は進路を絞り込むより、可能性を広げたい時期。子どもの興味の周辺にある多様な仕事について家庭で話すなど、子どもの視野を広げるよう意識するといでしよう」(同)

また、今年度から大学入試センター試験に代わる「大学入学共通テスト」がスタートします。学校から提供される大学入試情報などに、保護者もアンテナを張つておくと安心です。



幅広い力を身に付け飛躍的に成長

主な学校行事

文理分かれての授業となり、より深い学びに取り組む。生徒同士での対話やグループワークを行うアクティブラーニング型の授業では、より積極的な姿勢が求められる。

【新学力UPの視点】
授業中に自ら発信することも多いため、従来の座学型授業以上に主体的に学ぶ姿勢、深く考える力が養われる。

- 授業スタート
- 中間テスト
- 個人面談

- 修学旅行
- 中間テスト
- 文化祭
- 体育祭
- 校外プログラム
- 夏期講習
- 校外プログラム
- 期末テスト
- 模試・外部テスト
- 部活動の代替わり

このころが高校3年間の折り返し地点。気を引き締め直す機会とする。

1年生での成功・失敗経験を基に、さらにレベルアップした内容を目指して取り組む。春に開催し、クラスづくりに役立てる学校もある。
【新学力UPの視点】
クラスや部などのチームで力を合わせ、想定外の事態にも対処するなかで、協働する力や思考力、判断力が鍛えられる。

受験時に志望校を記入するようになる。学校について調べたり考えたりするきっかけになる。

【新学力UPの視点】
リーダーシップを發揮し、困難な場面も仲間と乗り越える経験を積むことで、技術力以外にも多様な力が育まれる。

進路選択に関わる行事

- 進路ガイダンス
- 大学教員の出張講義
- 進路に関する課題研究
- 三者面談
- オープンキャンパス・公開講座参加

進路に関する探究学習を数ヶ月かけて行う学校も。各自でテーマを設定して大学や企業、地域に出て情報収集し、ポスター・レポートにまとめて発表するなど。
【新学力UPの視点】
自ら設定したテーマを深めていく過程で主体性や思考力が養われ、情報を整理して表現する力も育まれる。

夏休みを中心に多くの大学や専門学校でオープンキャンパスや高校生向け体験講座が開催されるので、各自で申し込んで参加する。3年生は受験勉強で忙しくなるので、2年生が参加のピーク。保護者と一緒に参加する人も多い。定員制で事前予約が必要な場合もあるので、早めのチェックが必要。

保護者の参加行事と関わり方

学年・クラスの1年間の指導方針についての説明があり、進路に関する情報提供も行われる。

保護者向け進路説明会

保護者の時代から様変わりしている入試の状況について解説される。



入試の基礎知識をもつ

最近の入試の傾向についてある程度知つておくと、子どもの進路の会話がスマートになるでしょう。ただし、保護者主導で情報収集したり判断したりするのは避け、子どもの考え方・行動を見守りたいものです。

モード チェンジ

高校生活後半に突入し、学校行事や部活動に打ち込みながらも、進路選択や受験勉強への意識を強めていく時期です。メリハリをつけて生活できるよう、時に声かけていきましょう。

三者面談

進路についての話題がメイン。どんな方向性を考えているか、そのためにはどんな準備をしていくとよいか話し合う。



勉強と部活以外の活動も後押し

夏休みは地域ボランティア、企画アイデアコンテスト、短期留学、サマーキャンプなど、学校の枠を超えて活動するチャンス。本人の興味関心や進路の方向性に基づく幅広い経験を促しましょう。

保護者会

学年・クラスの1年間の指導方針についての説明があり、進路に関する情報提供も行われる。



子どものがんばりは積極的に見学

授業公開や文化祭・体育祭、部活動の試合や発表会などは、積極的に見に行くのがオススメ。家庭では見られない子どものがんばりが見られ、成長を実感できるでしょう。

成長見守りモード

一生懸命やる楽しさを知ると
勉強に対しても前向きに

2年生

2年生は中だるみの学年と言われることもありますが、実は最も大きく成長できる1年間です。

文化祭や体育祭では、1年生のときの成功・失敗経験を生かして盛り上げに貢献。修学旅行では生徒が企画段階から関わったり、部活動では3年生引退後に後輩をリードしていくたりと、活躍の場が多くなります。

そんな生徒主体の活動を通じ、子どもたちは思考力や判断力、協働する力などを育む他、「何かに一生懸命取り組む楽しさ」を体感するでしょう。この楽しさに目覚めた子どもは、大きく変化すると

言います。
「何事にも受け身だった生徒が、1つの行事で大きな充実感をもつた経験から、その後の学校行事や部活動、勉強など、あらゆることに能動的な姿勢で臨むようになることも。行事の実行委員や係などの役割は、そんな変化のきっかけをつかむ絶好のチャンスです」
(堀先生)

また、高校生対象のコンテスト

卒業生に聞きました！ /
高校時代のどんな活動が
今に活きている？

思い通りにいかない経験も力とし
学校外の活動にも挑戦



法政大学 現代福祉学部
福祉コミュニティ学科2年
(島根県立隱岐島前高校卒業)
真野拓哉さん

意識の高い意欲的な子が多く集まる高校に入学し、当初は気後れして消極的に。それが悔しくて、一皮むけたくて、思い切って生徒会長に立候補しました。結果は落選でしたが、自分が積極的に行動することで周囲にも良い影響があるのだと肌で感じることができました。

その後も、学校の探究活動や部活の他、学校外の活動にも自ら飛び込んでいきました。東北の南三陸に、一人でボランティアに出掛けたことも。いろんな人と出会い、たくさん話をし、世界の広さを知りました。高校のさまざまな経験を糧に、今できることを精一杯やっていきたいと思います。

苦労を経て得た達成感から
自分に自信がもてるよう



高知リハビリテーション学院
言語療法学科2年
(高知県立須崎高校卒業)
銚島 歩さん

高校では商業部に所属し、部活動に力を入れていました。特に印象に残っているのが、「商い甲子園」大会への出場です。大会では、商品の仕入れから値入れ、店舗レイアウト、販売まですべて自分たちで行います。私は2・3年次にリーダーを務め、苦労もありましたが、みんなで成し遂げた達成感はとても大きなものでした。

実は私、高校に入るまでは自分に自信がなく、「リーダーの器じゃない」と決めつけていました。しかし、部活の経験から「自分にもできる」と思えるように。今、進学先の学校でも率先してリーダー役を買って出ています。主体的に物事に取り組むことで成長できた自分の経験を基に、他の人の背中を押せる存在になりたいと思っています。

※学校行事はモデルケースです。

3月 2月 1月 12月 11月

● 学年末テスト

入試でも課されることが多い小論文。対策に時間がかかるので、2年生からスタートする学校が多い。

2月

● 小論文学習がスタート

試験当日に受験生と同じ問題に挑戦する模試。志望校合格への現在の到達点を確認し、今後の学習計画を見通す。

1月

● 大学入学共通テスト体験模試
● 模試・外部テスト



単なる思い出旅行ではなく、事前・事後学習を含めた体験的な学びの機会。内容は、研究所や企業の職場訪問、住民の体験を聞く平和学習などさまざま。

【新学力UPの視点】

体験を通じて生きた知識を身に付ける他、旅先の暮らしや課題に目を向けることで多様性の理解を深めるなどの効果も期待できる。

進路分野や志望校によっては、必ず履修しておかなくてはならない科目がある。目標に応じて必要な科目を選択する。

現時点の志望校について志望理由を書いてみる進路学習。自分の思いを文章にすることで、目標達成への意欲を高めるのがねらい。

● 次年度の科目選択

● 合格体験報告会

進路が決まった先輩たちから、合格への道のりやアドバイスなどを聞く。生の体験談を聞くことで刺激を受ける生徒が多い。

● 志望理由ワークシート

現時点の志望校について志望理由を書いてみる進路学習。自分の思いを文章にすることで、目標達成への意欲を高めるのがねらい。

● 次年度の科目選択書類の確認



書類には保護者の確認・捺印が必要。



Point!
先生への相談を促す

受験と科目選択との関係は複雑。子どもが迷っていたり、安易に考えたりする場合は、本人が学校で先生に相談してみるよう促すのも手です。

進路決定応援モード

やワークショップなど校外イベントに参加し、主体性やコミュニケーション力を飛躍的に伸ばし、興味関心を広げる生徒も。さまざまなことに積極的に挑戦するよう、ぜひ家庭でも後押ししたいですね。

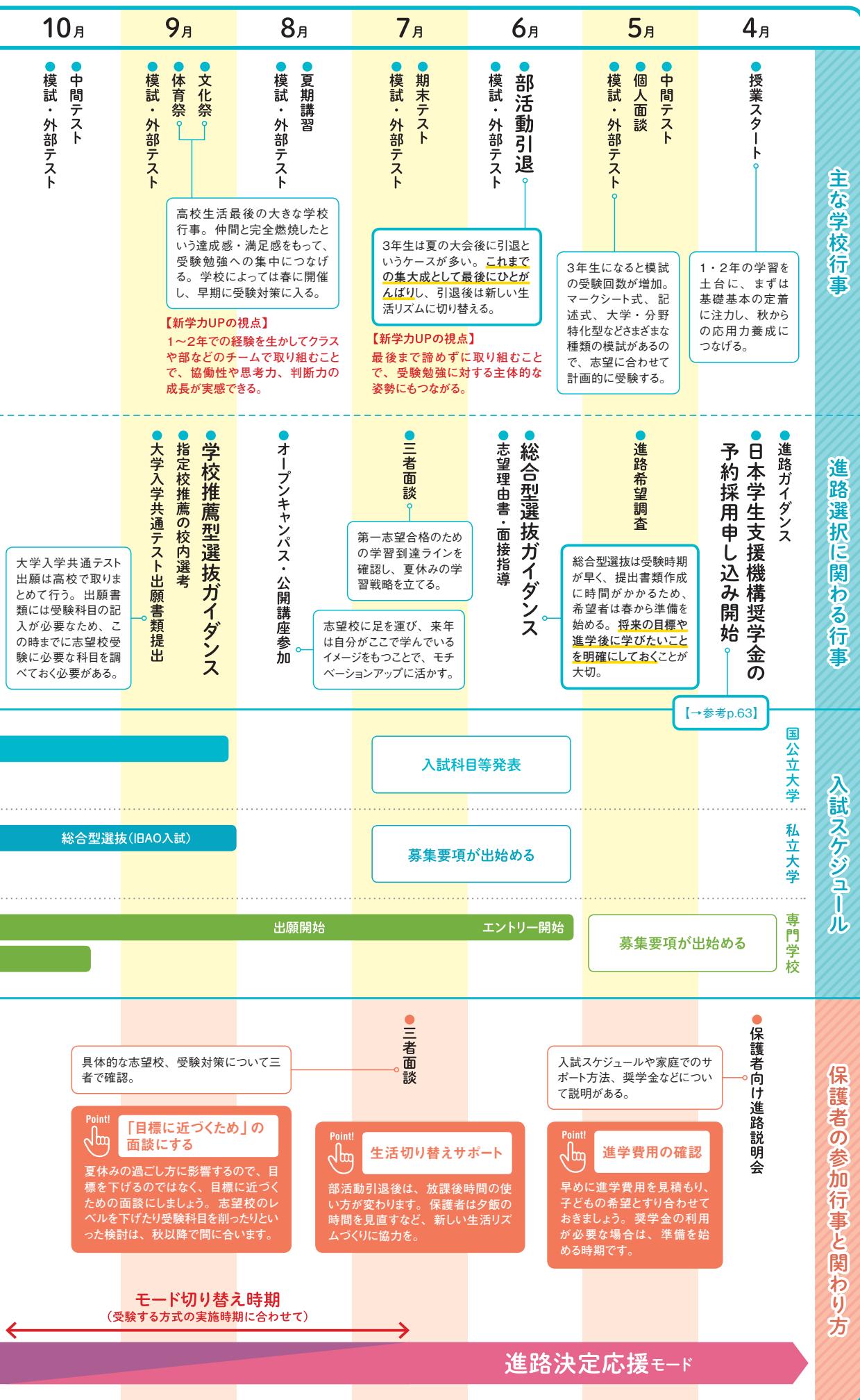
受験対策が始まるとき「そ
目的意識を再確認

2年生の10月ごろは、高校生活の折り返し地点。ちょうどこのころの実施が多い修学旅行が終わると、一気に受験ムードが高まります。さらに「3年生0学期」と言われる3学期になると、先輩たちが次々と進路を決定していく姿を横目に、受験勉強を始める2年生が増えます。

この時期、志望理由ワークシートなどを活用して、進路に対する自分の気持ちを確認する時間を設ける学校が少なくありません。「進路決定」というきれいな「花」を咲かせるためには、勉強をがんばって「枝」を伸ばすとともに、何のための勉強かという目的意識をしつかりもつて「根」を張ることが大切です。家庭においても、今やるべき勉強の話だけでなく、「何に関わっていきたいか」「どういう人生を送りたいか」といった長期的な将来の話ができるとよいですね」

(同)

高校生活をやりきつたという充実感を原動力に 進路実現に向けて強い気持ちで進んでいく



行事や部活に完全燃焼後
切り替えて受験態勢に

最高学年である3年生は、学校行事や部活動で最も輝ける学年です。子どもに希望の進路をかんでもほしい保護者としては、「早く受験勉強に集中して」と急かしめています。それによって充実感や自信、仲間がいる心強さをもてれば、終了後はすっぱり意識を切り替えて勉強に集中できるからです。

(堀先生)

必ずしも進路実現の邪魔ではないようです。

「本校の生徒には、学園祭の準備を含めた数日間はいつたん勉強のことは忘れて完全燃焼しようと言っています。それによって充実感や自信、仲間がいる心強さをもてれば、終了後はすっぱり意識を切り替えて勉強に集中できるからです。

（堀先生）

ただし、放課後の過ごし方が変化する部活動引退後は、生活面に多少の目配りも必要。燃え尽きてぼんやりしている子どもには、うまく生活を切り替えていくよう声かけするといよいよでしょう。

受験直前は精神面が大事 前向きな言葉かけを

一般選抜の受験生にとっての正念場が10月～11月ごろ。毎週のよう

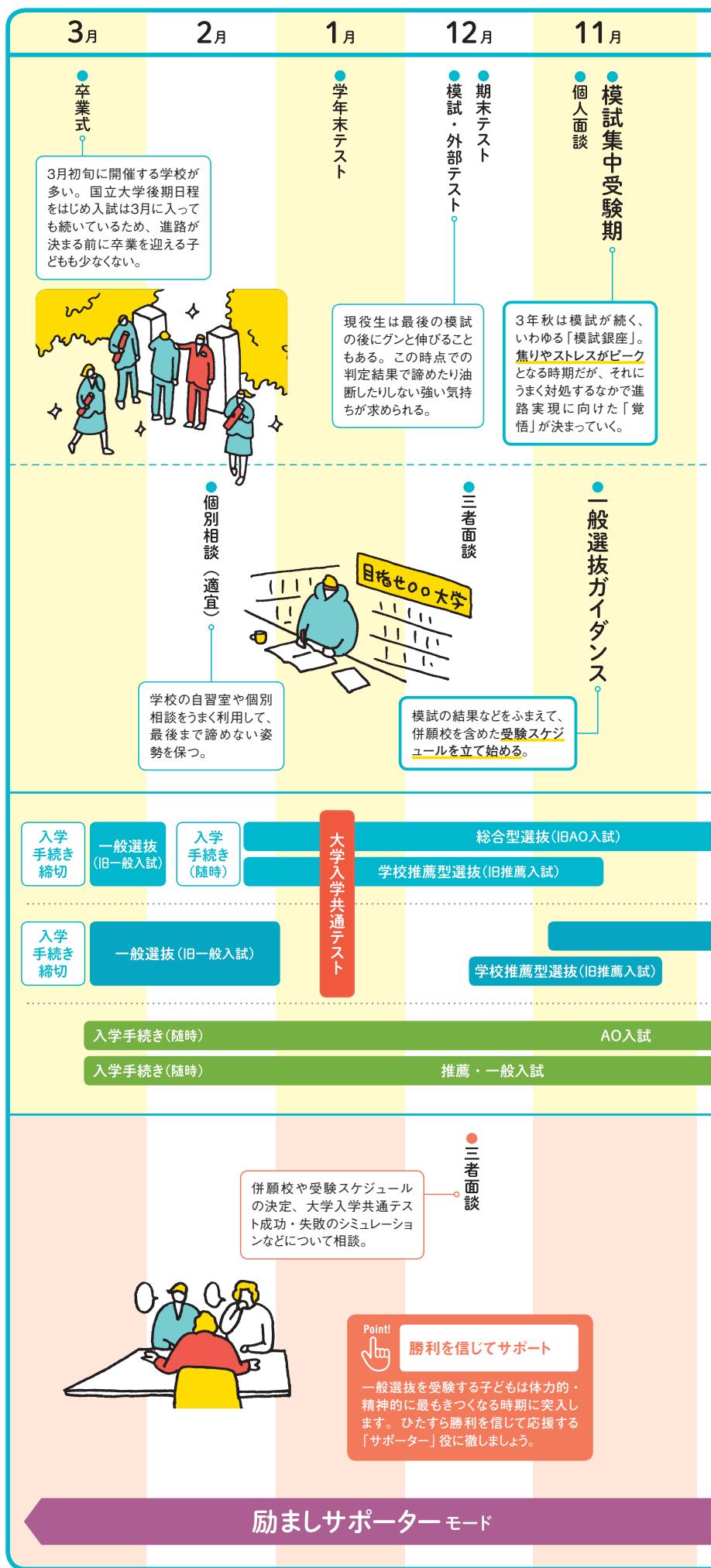
に模試を受験し、体力的・精神的に最も苦しい時期となります。

「この判定で大丈夫なの」「ちゃんと勉強しているの」などの言葉は不安や焦りを煽るだけ。たとえ偏差

値や合否判定が厳しくても、保護者には「勝利を信じてひたすら応援

するサポート役に徹して、「大丈夫！」と思い切り励ましてあげてください。この時期を乗りきることができれば、あとはもうやることにかかるものです」(同)

こうして自分自身で選んだ進路へと一步を踏み出す子どもたち。高校時代、保護者に見守られてきたという思いは、きっとこれから自分の足で歩んでいく子どもの力になっていくでしょう。



※学校行事はモデルケースです。入試スケジュールは目安なので詳細は各大学・専門学校の発表をご確認ください。